

# 「第 5 回 製剤機械技術学会 仲井賞若手研究者奨励賞」 受賞者の選考結果について

## The 5th NAKAI Young Investigator's Encouragement Award of Japan Society of Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員会 委員長 丹羽 敏幸

Toshiyuki NIWA

Chair of Selection Committee of the NAKAI Award

本学会では創立 10 周年を機に、2000 年より「仲井賞」を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕彰しております。2017 年 1 月に本会名誉会長 仲井 由宣 先生がご逝去されました。製剤機械技術学会は仲井 先生のお持ちであった本会創設にあたっての理念、目標を継承、発展することを目的とし、新たに「仲井賞若手研究者奨励賞」を設け、基礎研究、応用研究、または技術開発を通じて優れた業績を上げた 40 歳未満の会員を表彰することにいたしました。

仲井賞選考委員会において、応募内容について、慎重かつ厳正に審査した結果、下記を「第 5 回 製剤機械技術学会 仲井賞若手研究者奨励賞」受賞者として会長に報告し、理事会にて受賞者が決定いたしました。

### 記

・受賞者：内山 博雅（大阪医科薬科大学）

・受賞業績題目：噴霧乾燥法に基づいた新規な非晶質製剤化技術の構築とその応用

・受賞理由：現在の創薬活動において、医薬品候補化合物には難水溶性物質の占める割合が大きく、その溶解性改善、さらには消化管からの吸収改善は、新薬を開発する上で大きな課題となっている。受賞者は、噴霧乾燥法による新規な非晶質製剤化技術、特に低～中分子基剤とのコアモルファス化技術を利用した溶解性改善に関する知見を提示した。その際、消化管吸収を抑制する p-糖タンパク (P-gp) や小腸粘膜・肝臓での代謝酵素 (CYP) の阻害剤を基剤として採用することで、溶解性と粘膜透過性を同時に改善する画期的な手法を見出した。さらにコアモルファスのエマルジョン製剤にも適用を広げるなど本技術は実用性が高く、我が国の製剤技術の発展に大きく貢献するものと期待できる。また別に、機能性添加剤のナノ集合体を利用した健康食品成分の溶解性・安定性の改善についても精力的に取り組み、これまでに 45 報、直近 5 年間でも 36 報の研究論文が著名な国際誌に掲載されるなど、製剤・薬剤分野における業績は誰もが認めるところである。

受賞者は、アカデミアでの学術研究に加え、製薬会社での創薬活動といった実用面での経験を持ち、今後ますますの活躍が期待される若手研究者であることから、第 5 回 仲井賞若手研究者奨励賞の受賞者に相応しい人物と考える。

以上